



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2014年 No.2

(通巻33号)

3月33日発行



寒さも遠のき、桜の季節がやってきました。

皆様方にはお元気で過ごしのことと思います。

今号のニュースレターは、2014年度年次総会のご報告を中心にお届けいたします。任意団体として7年目の本年は、支援先の拡大を始めとする、いくつかの新規事業を決定いたしました。

皆様方の一層のご理解・ご支援を、よろしくお願い申し上げます。

2014年度年次総会報告

去る3月9日(日)、相鉄線星川駅近くのほ도가や市民活動センター(愛称:アワーズ)で年次総会を行いました。今回は開会前に会食があり、ディウフ会長手作りのチェブジェン(セネガルの国民食、魚の炊き込みご飯)と柳田さん作のサラダ(ベビーリーフとナッツ)をいただきました。とてもおいしかったです。また、開会冒頭、ディウフ会長が、昨年6月末~7月初めのセネガル訪問について、ビデオを使い報告しました。現在の支援校、また本年、新たに支援を始める学校の状況が十分に理解できました。

役員改選

2年の任期満了に伴い、下記の通り新役員を決定しました。

会長	エル・ハッジ・マサンバ	ディウフ
副会長	柳田	
事務局長	水野	
副事務局長	田口	
会計	飯山	
会計監査	和田	

2013年度活動報告

国内活動

青葉国際交流ラウンジ主催「マサンバさんがやって来る アフリカ連れてやって来る」、アフリカルチャー主催「セネガル物語 2012」「セネガル物語 2013」、港北区国際交流ラウンジ主催「アフリカと友達になろう」、外務省主催「アフリカン・フェスタ 2013」、NGO ゴスペル広場主催「GOSPEL FOR PEACE」、よこはまCプラット主催「よこはま国際フェスタ」に参加しました。

ニュースレターは、5号、発行しました。

* 国外活動 *

サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ小学校、サルム・ジャネ中学校、障がい児を支援する教師の会（ジャロさんグループ）、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校に加えて、新たにサーバシ・チャム アラブ語学校に定期（定額）支援金を贈りました。

また、ンジャゴ小学校に図書館新設資金（建物のみ）とサルム・ジャネ小学校に教室修理のための支援金を贈りました。

2014 年度活動計画

* 国内活動 *

1. 外部イベント参加

「あーすフェスタかながわ 2014」（5月17日（土）18日（日）あーすプラザ）、「かながわく国際交流まつり」（5月25日（日）沢渡中央公園）、「第5回 GOSPEL FOR PEACE」（5月31日（土）新宿文化センター）に参加が決定しています（詳細は次号）。

その他、秋以降に「よこはま国際フェスタ」、「アフリカン・フェスタ」、「セネガル物語」が開催されれば参加する予定です。

2. 自主企画イベント 「福引 2014」

毎回好評の福引を今年度も開催します（2008年度より隔年開催）。10月に福引券販売スタート、12月初旬に抽選パーティーの予定です。

* 国外（セネガル） *

1. 定期（定額）支援

昨年と同様、サルム・ジャネ小学校、サーバシ・チャム小学校、ンジャゴ小学校、サルム・ジャネ中学校、クール・マジヤベル小学校、ンジャウ・マリック小学校、サーバシ・チャム アラブ語学校、障がい児を支援する教師の会に定期（定額）支援金を贈ります。

また、新たに、次の4校に定期（定額）支援金を贈ることになりました。

・バンブガール・マサンバ小学校

ディウフ会長の祖父が拓いた村の小学校。2005年創立。所在地ファティック。生徒数53。

・ンガティ・ナウデ小学校

（株）ファンケルさんの「さんみじお」の生産地、ンガティ・ナウデ村の小学校。生徒数312。

・ンガティ・オルディ小学校

同じくンガティ・ナウデ村の小学校。生徒数156。

・ユネスコ・クラブ（クール・マジヤベル聾唖学校）

クール・マジヤベル村にある、私立の聾唖学校。生徒数18。

2. 施設整備

・昨年、建物建設費を贈り、建設の進むンジャゴ小学校図書館の内部設備及び図書代を贈ります。

・新規定期（定額）支援校のバンブガール・マサンバ小学校に、トイレ3基とベンチ付き長机20個を贈ります。

・ンゴディバ フランコアラブ学校（カオラックの歴史あるアラブ語学校だったが、フランコアラブ学校に発展）に、トイレ3基とベンチ付き長机40個を贈ります。

活動報告

よこはま国際協力・国際交流プラットフォーム運営委員会主催

「よこはま国際フォーラム 2014」 <http://yokohama-c-forum.org/> 参加 (文責：柳田)

バオバブの会では 9 日に「イスラミズムと教育」というテーマでセミナーを行いました。前日は記録的な大雪で途中中止、9 日もその影響で交通の便も足下も悪い中、二十数人用のセミナールはほとんど満席となりました。ディウフ会長によるお話の内容は、国際テロ集団に教育を受ける機会のなかった若者たちが取り込まれている現実、本来のイスラム思想、セネガルのイスラムの指導者たち、セネガルの教育制度と学校、そしてバオバブの会が支援する“フランコアラブ”（地理や数学などの通常の学科の授業と、コーランやハディースなどのイスラム教育を平行して行う学校）の重要性、等々。テロが起きる原因は多々あって複雑ですが、幅広い知識と本来のイスラムの平和思想を同時に学ぶことが、少なくともテロ集団に取り込まれないための抑止策のひとつにはなる、とお伝えしました。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★

第13回 「もてなし」

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

日本では、近頃、〈おもてなし〉が流行語になっているようですが、〈もてなし〉は、アフリカの人々にとって、たいへん重要な決まりごとのひとつです。これによって、お客を迎える側にはたくさんの義務が生じ、客側には多くの権利や特典が与えられます。とはいっても、お客にはなんの義務もない、というわけではありません。とりわけ、〈もてなし〉につけこんでこれを利用しようとすることは禁じられています。嬉しいことに、この決まりは、社会と経済全般に変動が起きているにもかかわらず、未だ、広く守られています。しかし、私は、最近、ダカールを始めセネガルの大都市で暮らす人々の家庭から、時おり、〈もてなし〉に関わる諍いの声が聞こえてくることに心を痛めています。この諍いの主な原因は、都会の住居の狭さにあります。セネガルのマレンケの人々は「**どれほど狭くて物が溢れていても、大きな太鼓を置く場所はある**」注①と言いますが、アフリカの大都市では、このことわざの心は失われようとしているのでしょうか？経済的発展と呼ばれるものを追求する中で、アフリカの人々も、彼ら自身の伝統的な価値観や習慣をどこまで守っていけるのだろうか、と自問せざるを得ません。しかし、その問いはさておき、今は、アフリカに於ける〈もてなし〉に関わる決まりごとのいくつかを見ていくことにしましょう。

訪問には、〈到着する〉、〈滞在する〉、そして〈帰る〉の3つの段階があります。

まず、〈到着〉のときには、迎える側と迎えられる側双方に、ひとつずつの決まりがあります。お客を迎えるとき、迎える側が最初にしなければならないことは、紹介することです。お客を、その家に住んでいる人々だけではなく、近所の人々注②にも紹介します。さもないと、カメルーンのコシの

人々の非難の言葉を聞くことになるでしょう。「お客を連れてきながら、戸口の外に放っておく」と。というのも、紹介されなければ、お客は、訪れた家の中に入ったとは感じられないからです。紹介されて、初めて、お客は迎えられ、＜訪問客＞という特権的な身分に置かれることになるわけです。そして、紹介のあとは、お客に、家の中を案内しなければなりません。コンゴ民主共和国のバンディブーの人々が「新しくやってきたにわとりに道案内をするのは、家のにわとりに」注③と言うように。私はよく覚えています。祖父はコンゴの人ではありませんでしたが、この決まりを必ず守っていました。また、家の中をくまなく案内しながら、お客が後で「トイレはどこですか？」と尋ねなくてもいいように、さりげなくトイレの場所を覚えておく、というやり方をしていました。

一方、迎えられるお客の側の決まりは、義務というよりは礼儀とか気配りといった種類のもので、＜手ぶらではやってこない＞というものです。マリのバンバラの人々は言います。「コラを持ってくる人は生命をもたらず」と注④。数粒のコラの種子は、経済的な価値のあるものではありませんが、＜コラを持ってくる＞という行為は象徴的なもので、好意や感謝を表し、良い雰囲気を作る、ということなのです。実際、人の行いの中では、形はしばしば中身と同じ価値を持ち、時には中身を凌駕することさえあるものです。

さて、晴れて＜預言者＞となると、彼にはどのようなもてなしが尽くされるのでしょうか？「＜預言者＞だって？」と驚かれることでしょうか。そうです。これは私ではなく、ナイジェリアのイボの人々が言っているのです。「お客は神様のお使い。敬意を尽くしてもてなすべし」と。おいしい食事、快適な寝室等々、どうしたらお客に喜んでもらえるか、考えねばなりません。しかし、尊敬に値する＜預言者＞であったとしても、すべてのお客が同じような重みがあって、同じようなもてなしを受ける、というわけではありません。日本にも「豚に真珠」「猫に小判」と言うことわざがありますね。お客にとって過大なもてなしをするのは、そのお客に、気づまりなど、愉快でない思いをさせかねません。その反対も同様です。したがって、ギニアのマンディングの人々の言葉に耳を傾けるべきです。

「にわとりを絞める前には、お客の性格を見極めよ」。座る場所、料理、飲み物、寝室等々、すべてについて、そのお客の格に応じたもてなしをしなければならない、ということです。

物質的なもてなしの他にも、お客は、尊敬と寛容と、とりわけ忍耐の恩恵を受けます。このような極めて細やかな心遣いに関しては、たくさんのことわざがあります。例えば、ガボンのマサンゴの人々の「お客は、すぐに消えてしまう霧のようなもの」。ケニアのワングルーの人々の「お客は若鳥のようなもの。翼を拡げるや、自分の巣に飛び帰る」。コートジボアールのパウレの人々の「お客とベッドを争うな。長くは居ない人なのだから」。ブルキナファソのモシの人々の「一緒に食事をするときに、お客の食べ方をつべこべ言うなかれ。なぜならお客はまもなく立ち去る人だから」。これらの意味は、容易に理解できますね。訪問というのは束の間のものであり、まもなく＜思い出＞の領域に入ってしまうものなのです。＜思い出＞と言えば、現在でもセネガルの人々に好まれている言葉があります。

「私たちの振る舞いや言葉は、後日、語られることになる。だから、良い思い出になるように努めよう」です。

お客の側も見てみましょう。これほどの尊敬、寛容、忍耐、そして気遣いの前で、お客の抱くべき感情と態度はなんでしょう？それは＜感謝＞です。たとえ、それほどのご馳走でなかったとしても。なぜなら、良いもてなしをしたいという思いと、しなければという義務感があったとしても、物質的に難しいことがあるからです。ブルンジの人々は言います。「ソルゴの酒を少ししか作らないのは、

家族を嫌っているからではない」と。いずれにしろ、南アフリカのズールーの人々が言うように、「お前のことを気にかけてくれる人は、誰でも、親よりも尊い」です。その程度がどのようなものであっても、<もてなし>は愛すべき宝ものなのです。

さて、何事にも終わりにはあります。よその家への滞在も、例外ではありません。<厚遇に甘えず、よい具合に滞在を切り上げること>は、お客にとって最も大切な決まりです。人は、わずかの間でも王様の椅子に座ったら、降りたくなくなるものですから。いつまでもそこに座っていたい、という気持ちは、とても強いことでしょう。権力の座に居座るために、様々な口実を探し、あらゆる手段—憲法を変えようとする—をとろうとする政治的指導者が良い例ではないでしょうか。残念なことに、アフリカの多くの国々には、このような指導者がいます。コンゴの人々は昔から言っています。「**食いしん坊のねずみが実を食べにやってきた。全部の実が一度には熟さないから、ねずみはいつまでも帰らなかった**」

注① 太鼓は、かつて、村から村への通信手段であっただけでなく、踊りや相撲や宗教的儀式など、あらゆる場面で使われていました。ですから、共同体にとって、欠かすことのできない大事なものでした。そこで、このことわざは、「どんなに狭い家でも、（太鼓のように大事な）お客のための場所はあるものだ」という意味になります。

注② セネガルでは、通常、みんなで一緒に、大きなお皿を囲んで食べます。誰かの家にお客がくると、近所の人がやってきて、そのお客を自分の家の食事に誘う、という習慣もあります。お客がそこまで行けない場合は、食事を小さな器に入れて、届けてくれることもあります。訪ねていった家だけでなく、そのまわりの人々からも、お客としてもてなされる、ということです。

注③ 村の家では、たいてい、羊、やぎ、ろば、牛等々、なんらかの動物を飼っていますが、現在、最も多く飼われているのはにわとりです。にわとりは、いろいろと役に立つからです。例えば、1. 予告なくお客がやってきたとき、すぐに、もてなしの一皿が作れます。2. お金が必要になったとき、売って、簡単にお金に換えられます。3. お客が帰るとき、おみやげとして持たせます。同様に、お客は、手土産として持ってきます。このことわざは、最後の場面から生まれました。お客が手土産ににわとりを持ってきたとき、家の人は、そのにわとりを自分の家のにわとりたちの中に放します。

注④ コラは西アフリカ原産の常緑高木で、その種子は興奮作用を持つコラニンや苦味成分、またカフェインを含み、かつては清涼飲料（コーラ）の原料に使われました。アフリカでは古くから嗜好料として用い、生の種子を噛んだり、乾燥した種子を粉にして水に溶かして飲んできました。現在でも、コラの種子は、結婚、赤ちゃんの命名、葬式などの伝統的な儀式や、訪問のとき、お年寄りへの敬意の印として使われています。また、人前でコラの種子を取り出したら、まわりの人に分けて一緒に食べます。セネガルでは、プロポーズの際にも使われ、女性が男性からコラの種子を受け取ったら、結婚を承諾した、という意味になります。

♥ ♥ ♥ 会員募集 ♥ ♥ ♥

バオバブの会は、常時、会員として活動して下さる方を募集しています。
入会を希望される方、また、活動に関心をおもちの方は、下記までお問い合わせください。

バ オ バ ブ の 会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35
TEL&FAX 045-373-0059 HP:<http://the-baobab.org>
代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ
寄付振込先:
三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673
ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215